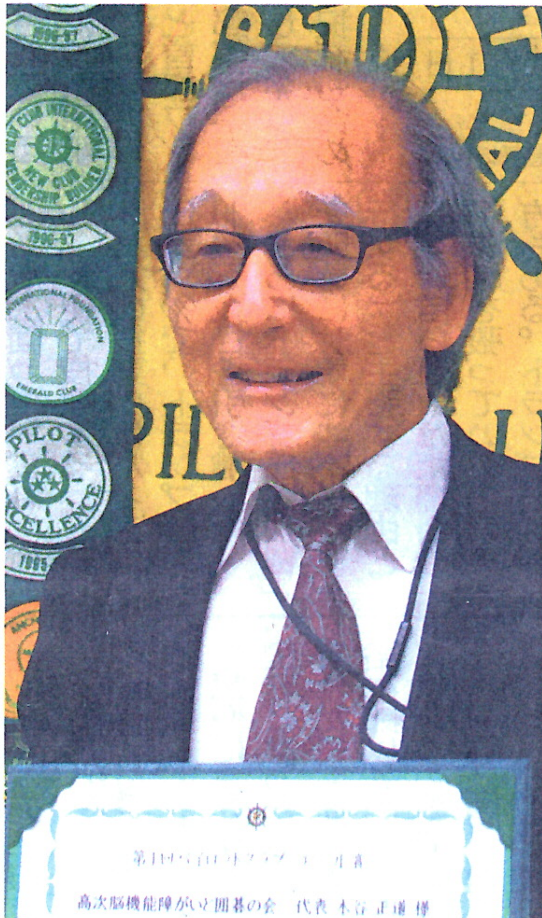


囲碁で高次脳機能障害の人々を応援

木谷 正道さん(72)



神奈川県平塚市生まれ。日本棋院平塚支部長。9月開催の防災イベント「首都防災ウィーク」事務局長。

「頭を使い、手を動かす。相手と対話しながら打つことで新たな交流の輪も生まれる」
交通事故や病気の後遺症で記憶力や注意力が低下する「高次脳機能障害」がある人たちの囲碁の集いを主宰する。メンバーは当事者約20人とその家族。囲碁好きのボランティアもあり、東京都大田区の障がい者総合サポートセンターの会議室

で碁盤を囲む。
囲碁の後は自身が率いる音楽バンドのミニコンサート。地域で共生の輪を広げる活動が評価され、今春、脳関連障害の支援に取り組むボランティア団体「パイロットインターナショナル日本ディストリクト」主催の第1回「パイロットクラブ・エール賞」に選ばれた。
囲碁棋士の故木谷美九段を父

に持ち、幼い頃から囲碁に親しんだ。とはいえ父の背中は追わず、東京大経済学部を卒業後、都職員に。清掃事務所長時代、新宿区の早稲田の街づくりに関わったのを機に「地域防災の重要性に気づいた」という。定年前の59歳で退職し、学生時代に熱中した音楽と防災の2本柱で活動を始めたところ「もう一つ、生かせるものがあった」。それが囲碁だった。

知り合った高次脳機能障害の当事者らに囲碁を教えたのが3年前。表情が明るくなり、みるみる上達していった。「心のリハビリテーションに役立つかもしれない」と思い立った。

「音楽、防災、そして囲碁。これまでの活動が一つにつながった」と声を弾ませる。「みんなが共に生きる社会をつくる」。それが目標だ。文と写真・明珍美紀